

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 多群・多時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (tohoku002-00. dns 2015-03-14)

要因 A : ID 番号-仮設番号+個人番号

要因 B 1:1 回即時再認 (3 点満点)

要因 B 2:2 回即時再認 (3 点満点)

要因 B 3:3 回即時再認 (3 点満点)

時期 : 時期(要因 B) 別・全個体(要因 A) 合計基礎統計量

1	: 例数=239	平均値=2.85774	標準偏差=0.46365	標準誤差=0.029991
2	: 例数=239	平均値=2.78661	標準偏差=0.534983	標準誤差=0.0346052
3	: 例数=239	平均値=2.78661	標準偏差=0.558047	標準誤差=0.0360971
全体	: 例数=717	平均値=2.81032	標準偏差=0.520801	標準誤差=0.0194497

・二元配置分散分析(two-way layout analysis of variance)

要因	分散分析表(ANOVA table)				
	平方和	自由度	平均平方和	F 値	有意確率 p 値
個体	98.2036	238	0.41262	2.06323	1.38927e-11***
時期	0.806137	2	0.403068	2.01547	0.134393
残差	95.1939	476	0.199987		
全体	194.204	716			

・時期の Dunnett 型多重比較(Dunnett type multiple comparison)

時期	- 時期	d 値	群数	自由度	有意確率 p 値
2	- 1	1.73874	3	476	0.146627
3	- 1	1.73874	3	476	0.146627

・時期の Dunnett 型 95%同時信頼区間(simultaneous confidence interval)

時期	- 時期	平均値の差	区間幅	下限	上限
2	- 1	-0.0711297	0.0907644	-0.161894	0.0196347
3	- 1	-0.0711297	0.0907644	-0.161894	0.0196347

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 多群・多時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (touhoku002-00.dns 2015-03-14)

要因 A : ID 番号-仮設番号+個人番号

要因 B 1:1 回見当識 (4 点満点)

要因 B 2:2 回見当識 (4 点満点)

要因 B 3:3 回見当識 (4 点満点)

時期 : 時期(要因 B) 別・全個体(要因 A) 合計基礎統計量

1	: 例数=239	平均値=3.54393	標準偏差=0.665124	標準誤差=0.0430233
2	: 例数=239	平均値=3.64435	標準偏差=0.65712	標準誤差=0.0425055
3	: 例数=239	平均値=3.59414	標準偏差=0.690974	標準誤差=0.0446954
全体	: 例数=717	平均値=3.59414	標準偏差=0.671544	標準誤差=0.0250793

・二元配置分散分析(two-way layout analysis of variance)

要因	平方和	分散分析表(ANOVA table)		F 値	有意確率 p 値
		自由度	平均平方和		
個体	187.562	238	0.788076	2.79676	2.22045e-16***
時期	1.20502	2	0.60251	2.13821	0.118996
残差	134.128	476	0.281782		
全体	322.895	716			

・時期の Dunnett 型多重比較(Dunnett type multiple comparison)

時期	- 時期	d 値	群数	自由度	有意確率 p 値
2	- 1	2.06795	3	476	0.0717329+
3	- 1	1.03398	3	476	0.480519

・時期の Dunnett 型 95%同時信頼区間(simultaneous confidence interval)

時期	- 時期	平均値の差	区間幅	下限	上限
2	- 1	0.100418	0.107739	-0.00732022	0.208157
3	- 1	0.0502092	0.107739	-0.0575294	0.157948

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ3回分の解析結果

=== 多群・多時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (touhoku002-00.dns 2015-03-14)

要因 A : ID 番号-仮設番号+個人番号

要因 B 1:1 回遅延再認 (6点満点)

要因 B 2:2 回遅延再認 (6点満点)

要因 B 3:3 回遅延再認 (6点満点)

時期 : 時期(要因 B) 別・全個体(要因 A) 合計基礎統計量

1	: 例数=239	平均値=5.24686	標準偏差=1.29711	標準誤差=0.0839032
2	: 例数=239	平均値=5.2636	標準偏差=1.31953	標準誤差=0.085353
3	: 例数=239	平均値=5.12134	標準偏差=1.46023	標準誤差=0.0944545
全体	: 例数=717	平均値=5.2106	標準偏差=1.36045	標準誤差=0.0508071

・二元配置分散分析(two-way layout analysis of variance)

要因	平方和	分散分析表(ANOVA table)		F 値	有意確率 p 値
		自由度	平均平方和		
個体	677.199	238	2.84538	2.09948	4.52447e-12***
時期	2.88982	2	1.44491	1.06614	0.345156
残差	645.11	476	1.35527		
全体	1325.2	716			

・時期の Dunnett 型多重比較(Dunnett type multiple comparison)

時期	- 時期	d 値	群数	自由度	有意確率 p 値
2	- 1	0.157157	3	476	0.982043
3	- 1	1.17867	3	476	0.391772

・時期の Dunnett 型 95%同時信頼区間(simultaneous confidence interval)

時期	- 時期	平均値の差	区間幅	下限	上限
2	- 1	0.0167364	0.236281	-0.219544	0.253017
3	- 1	-0.125523	0.236281	-0.361804	0.110758

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 多群・多時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (touhoku002-00.dns 2015-03-14)

要因 A : ID 番号-仮設番号+個人番号  
 要因 B 1:1 回図形認識 1+2 (2 点満点)  
 要因 B 2:2 回図形認識 1+2 (2 点満点)  
 要因 B 3:3 回図形認識 1+2 (2 点満点)

時期 : 時期(要因 B) 別・全個体(要因 A) 合計基礎統計量

1	: 例数=239	平均値=1.10879	標準偏差=0.61893	標準誤差=0.0400352
2	: 例数=239	平均値=1.02092	標準偏差=0.644614	標準誤差=0.0416966
3	: 例数=239	平均値=1.05858	標準偏差=0.618958	標準誤差=0.0400371
全体	: 例数=717	平均値=1.06276	標準偏差=0.627774	標準誤差=0.0234446

・二元配置分散分析(two-way layout analysis of variance)

要因	平方和	分散分析表(ANOVA table)		F 値	有意確率 p 値
		自由度	平均平方和		
個体	164.176	238	0.689814	2.80472	2.22045e-16***
時期	0.92887	2	0.464435	1.88835	0.152453
残差	117.071	476	0.245948		
全体	282.176	716			

・時期の Dunnett 型多重比較(Dunnett type multiple comparison)

時期	- 時期	d 値	群数	自由度	有意確率 p 値
2	- 1	1.9368	3	476	0.0965277+
3	- 1	1.10674	3	476	0.43479

・時期の Dunnett 型 95%同時信頼区間(simultaneous confidence interval)

時期	- 時期	平均値の差	区間幅	下限	上限
2	- 1	-0.0878661	0.100655	-0.188521	0.0127891
3	- 1	-0.0502092	0.100655	-0.150864	0.050446

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 多群・多時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (tohoku002-00.dns 2015-03-14)

要因 A : ID 番号-仮設番号+個人番号  
 要因 B 1: フレイルスコア: BLANK ありを除外 1 回目  
 要因 B 2: フレイルスコア: BLANK ありを除外 2 回目  
 要因 B 3: フレイルスコア: BLANK ありを除外 3 回目

※3 回とも回答した被験者を解析対象にしているため、次の「3 回とも答えたデータ」と同じ結果になっています。

時期 : 時期(要因 B) 別・全個体(要因 A) 合計基礎統計量

1	: 例数=699	平均値=1.41059	標準偏差=1.39235	標準誤差=0.0526634
2	: 例数=699	平均値=1.37768	標準偏差=1.38467	標準誤差=0.0523732
3	: 例数=699	平均値=1.41488	標準偏差=1.46188	標準誤差=0.0552933
全体	: 例数=2097	平均値=1.40105	標準偏差=1.41282	標準誤差=0.0308522

・二元配置分散分析 (two-way layout analysis of variance)

要因	平方和	分散分析表 (ANOVA table)		F 値	有意確率 p 値
		自由度	平均平方和		
個体	3125.05	698	4.47715	5.90698	2.22045e-16***
時期	0.578922	2	0.289461	0.381904	0.682632
残差	1058.09	1396	0.757943		
全体	4183.72	2096			

・時期の Dunnett 型多重比較 (Dunnett type multiple comparison)

時期	- 時期	d 値	群数	自由度	有意確率 p 値
2	- 1	0.706572	3	1396	0.701726
3	- 1	0.0921615	3	1396	0.99378

・時期の Dunnett 型 95% 同時信頼区間 (simultaneous confidence interval)

時期	- 時期	平均値の差	区間幅	下限	上限
2	- 1	-0.0329041	0.10312	-0.136024	0.070216
3	- 1	0.00429185	0.10312	-0.0988283	0.107412

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 多群・多時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (touhoku002-00.dns 2015-03-14)

要因 A : ID 番号-仮設番号+個人番号  
 要因 B 1: フレイルスコア: 3 回とも答えたデータ 1 回目  
 要因 B 2: フレイルスコア: 3 回とも答えたデータ 2 回目  
 要因 B 3: フレイルスコア: 3 回とも答えたデータ 3 回目

時期 : 時期(要因 B) 別・全個体(要因 A) 合計基礎統計量

1	: 例数=699	平均値=1.41059	標準偏差=1.39235	標準誤差=0.0526634
2	: 例数=699	平均値=1.37768	標準偏差=1.38467	標準誤差=0.0523732
3	: 例数=699	平均値=1.41488	標準偏差=1.46188	標準誤差=0.0552933
全体	: 例数=2097	平均値=1.40105	標準偏差=1.41282	標準誤差=0.0308522

・二元配置分散分析 (two-way layout analysis of variance)

要因	平方和	分散分析表 (ANOVA table)		F 値	有意確率 p 値
		自由度	平均平方和		
個体	3125.05	698	4.47715	5.90698	2.22045e-16***
時期	0.578922	2	0.289461	0.381904	0.682632
残差	1058.09	1396	0.757943		
全体	4183.72	2096			

・時期の Dunnett 型多重比較 (Dunnett type multiple comparison)

時期	- 時期	d 値	群数	自由度	有意確率 p 値
2	- 1	0.706572	3	1396	0.701726
3	- 1	0.0921615	3	1396	0.99378

・時期の Dunnett 型 95% 同時信頼区間 (simultaneous confidence interval)

時期	- 時期	平均値の差	区間幅	下限	上限
2	- 1	-0.0329041	0.10312	-0.136024	0.070216
3	- 1	0.00429185	0.10312	-0.0988283	0.107412

## 東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

### 1.1.2 全ての被験者

全ての被験者を対象にした解析 A です。

=== 2 時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (touhoku002-00.dns 2015-03-14)

項目 1: 年齢 (2013/4/1) 一回目留置  
項目 2: 年齢 (2013/12/1) 二回目留置  
項目 3: 年齢 (2014/10/1) 三回目留置

○全データの基礎統計量

項目 1: 例数=1583	平均値=76.8196	標準偏差=6.26775	標準誤差=0.157533
項目 2: 例数=1583	平均値=77.4879	標準偏差=6.27081	標準誤差=0.15761
項目 3: 例数=1583	平均値=78.3196	標準偏差=6.26775	標準誤差=0.157533

※3 回のデータの基礎統計量です。年齢は 3 回ともデータがあります。

○対応のあるデータと対応のある t 検定 (1 標本 t 検定、one sample t-test)

・項目 2: 年齢 (2013/12/1) 二回目留置

項目 2: 例数=1583	平均値=77.4879	標準偏差=6.27081	標準誤差=0.15761
項目 1: 例数=1583	平均値=76.8196	標準偏差=6.26775	標準誤差=0.157533

変化量: 例数=1583	平均値=0.668288	標準偏差=0.0465501	標準誤差=0.00116999
t=571.193 自由度=1582 有意確率 p=0***			
変化量平均値の 95%信頼区間=0.668288±0.00229489 (0.665993-0.670583)			
Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=0***			
変化量平均値の 95%同時信頼区間=0.668288±0.00262491 (0.665663-0.670913)			

※1 回目と 2 回目のデータが揃っている被験者だけを解析対象にした、時期変動の解析です。

適用した手法は対応のある t 検定ですが、評価時期が 2 つあるため多重性の調整が必要です。

その多重性の調整をした結果が「Bonferroni 型多重検定」と「変化量平均値の 95%同時信頼区間」です。その上の対応のある t 検定の結果ではなく、こちらの結果を採用してください。

## 東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

### ・項目 3:年齢(2014/10/1) 三回目留置

---

項目 3:例数=1583	平均値=78.3196	標準偏差=6.26775	標準誤差=0.157533
項目 1:例数=1583	平均値=76.8196	標準偏差=6.26775	標準誤差=0.157533

---

変化量:例数=1583	平均値=1.5	標準偏差=0	標準誤差=0
-------------	---------	--------	--------

t=0 自由度=1582 有意確率 p=1  
変化量平均値の 95%信頼区間=1.5±0(1.5-1.5)  
Bonferroni 型多重検定:有意確率 p=1  
変化量平均値の 95%同時信頼区間=1.5±0(1.5-1.5)

---

※1 回目と 3 回目のデータが揃っている被験者だけを解析対象にした、時期変動の解析です。

この項目の場合は 3 回ともデータがあるので、解析対象例数は 1 回目と 2 回目の解析対象例数と同じです。しかし次の項目は 1 回目と 2 回目の解析対象例数と、1 回目と 3 回目の解析対象例数が異なります。



東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 2 時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (touhoku002-00.dns 2015-03-14)

項目 1: 身長 一回目留置  
 項目 2: 身長 二回目留置  
 項目 3: 身長 三回目留置

○全データの基礎統計量

項目 1: 例数=1364	平均値=155.15	標準偏差=8.65542	標準誤差=0.234359
項目 2: 例数=1048	平均値=155.356	標準偏差=8.32695	標準誤差=0.25722
項目 3: 例数=924	平均値=154.71	標準偏差=8.5465	標準誤差=0.281159

○対応のあるデータと対応のある t 検定 (1 標本 t 検定、one sample t-test)

・項目 2: 身長 二回目留置

項目 2: 例数=959	平均値=155.374	標準偏差=8.23777	標準誤差=0.266011
項目 1: 例数=959	平均値=155.491	標準偏差=8.32001	標準誤差=0.268667

変化量: 例数=959 平均値=-0.116788 標準偏差=3.04915 標準誤差=0.0984621  
 t=-1.18612 自由度=958 有意確率 p=0.235867  
 変化量平均値の 95%信頼区間=-0.116788±0.193226 (-0.310015-0.076438)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=0.471735  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=-0.116788±0.221041 (-0.337829-0.104252)

・項目 3: 身長 三回目留置

項目 3: 例数=826	平均値=154.899	標準偏差=8.42021	標準誤差=0.292977
項目 1: 例数=826	平均値=155.123	標準偏差=8.38715	標準誤差=0.291826

変化量: 例数=826 平均値=-0.224092 標準偏差=3.53524 標準誤差=0.123007  
 t=-1.82179 自由度=825 有意確率 p=0.0688494+  
 変化量平均値の 95%信頼区間=-0.224092±0.241443 (-0.465535-0.017351)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=0.137699  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=-0.224092±0.276212 (-0.500304-0.0521198)

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 2 時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (tohoku002-00.dns 2015-03-14)

項目 1: 体重 一回目留置  
 項目 2: 体重 二回目留置  
 項目 3: 体重 三回目留置

○全データの基礎統計量

項目 1: 例数=1404	平均値=56.6534	標準偏差=10.1555	標準誤差=0.27103
項目 2: 例数=1079	平均値=56.6215	標準偏差=10.366	標準誤差=0.315572
項目 3: 例数=947	平均値=56.3786	標準偏差=10.2826	標準誤差=0.33414

○対応のあるデータと対応のある t 検定 (1 標本 t 検定、one sample t-test)

・項目 2: 体重 二回目留置

項目 2: 例数=994	平均値=56.6358	標準偏差=10.3399	標準誤差=0.327963
項目 1: 例数=994	平均値=56.7186	標準偏差=10.1064	標準誤差=0.320557

変化量: 例数=994 平均値=-0.0827968 標準偏差=3.2563 標準誤差=0.103284  
 t=-0.801645 自由度=993 有意確率 p=0.42295  
 変化量平均値の 95%信頼区間=-0.0827968±0.202679 (-0.285476-0.119882)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=0.8459  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=-0.0827968±0.231852 (-0.314649-0.149055)

・項目 3: 体重 三回目留置

項目 3: 例数=857	平均値=56.437	標準偏差=10.3518	標準誤差=0.353612
項目 1: 例数=857	平均値=56.9883	標準偏差=10.2656	標準誤差=0.350665

変化量: 例数=857 平均値=-0.551342 標準偏差=4.18877 標準誤差=0.143086  
 t=-3.85323 自由度=856 有意確率 p=0.000125281\*\*\*  
 変化量平均値の 95%信頼区間=-0.551342±0.28084 (-0.832182-0.270502)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=0.000250562\*\*\*  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=-0.551342±0.321278 (-0.87262-0.230064)

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 2 時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (touhoku002-00.dns 2015-03-14)

項目 1: 【3】 (1)本数 一回目留置  
 項目 2: 【3】 (1)本数 二回目留置  
 項目 3: 【3】 (1)本数 三回目留置

○全データの基礎統計量

項目 1: 例数=155	平均値=15.1484	標準偏差=8.06531	標準誤差=0.647821
項目 2: 例数=127	平均値=15.2992	標準偏差=8.13118	標準誤差=0.721526
項目 3: 例数=103	平均値=14.8155	標準偏差=7.38141	標準誤差=0.727312

○対応のあるデータと対応のある t 検定 (1 標本 t 検定、one sample t-test)

・項目 2: 【3】 (1)本数 二回目留置

項目 2: 例数=115	平均値=15.4435	標準偏差=8.14581	標準誤差=0.759601
項目 1: 例数=115	平均値=15.7217	標準偏差=8.22976	標準誤差=0.767429

変化量: 例数=115 平均値=-0.278261 標準偏差=4.41399 標準誤差=0.411607  
 t=-0.676036 自由度=114 有意確率 p=0.500387  
 変化量平均値の 95%信頼区間=-0.278261±0.815389 (-1.09365-0.537129)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=1  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=-0.278261±0.93492 (-1.21318-0.656659)

・項目 3: 【3】 (1)本数 三回目留置

項目 3: 例数=86	平均値=15.1744	標準偏差=7.53219	標準誤差=0.812217
項目 1: 例数=86	平均値=15.2791	標準偏差=8.02152	標準誤差=0.864982

変化量: 例数=86 平均値=-0.104651 標準偏差=4.52712 標準誤差=0.488172  
 t=-0.214374 自由度=85 有意確率 p=0.830769  
 変化量平均値の 95%信頼区間=-0.104651±0.970616 (-1.07527-0.865965)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=1  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=-0.104651±1.11391 (-1.21856-1.00926)

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 2 時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (touhoku002-00.dns 2015-03-14)

項目 1: 【3】 (5) 日本酒 一回目留置  
 項目 2: 【3】 (5) 日本酒 二回目留置  
 項目 3: 【3】 (5) 日本酒 三回目留置

○全データの基礎統計量

項目 1: 例数=120	平均値=1.33333	標準偏差=0.722197	標準誤差=0.0659273
項目 2: 例数=79	平均値=1.39114	標準偏差=0.740095	標準誤差=0.0832672
項目 3: 例数=63	平均値=1.36984	標準偏差=0.645989	標準誤差=0.0813869

○対応のあるデータと対応のある t 検定 (1 標本 t 検定、one sample t-test)

・項目 2: 【3】 (5) 日本酒 二回目留置

項目 2: 例数=50	平均値=1.524	標準偏差=0.791423	標準誤差=0.111924
項目 1: 例数=50	平均値=1.4	標準偏差=0.763718	標準誤差=0.108006

変化量: 例数=50 平均値=0.124 標準偏差=0.47833 標準誤差=0.0676461  
 t=1.83307 自由度=49 有意確率 p=0.0728712+  
 変化量平均値の 95%信頼区間=0.124±0.13594 (-0.01194-0.25994)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=0.145742  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=0.124±0.156423 (-0.0324232-0.280423)

・項目 3: 【3】 (5) 日本酒 三回目留置

項目 3: 例数=38	平均値=1.52632	標準偏差=0.64669	標準誤差=0.104907
項目 1: 例数=38	平均値=1.51316	標準偏差=0.757725	標準誤差=0.122919

変化量: 例数=38 平均値=0.0131579 標準偏差=0.662579 標準誤差=0.107485  
 t=0.122417 自由度=37 有意確率 p=0.903232  
 変化量平均値の 95%信頼区間=0.0131579±0.217784 (-0.204627-0.230942)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=1  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=0.0131579±0.251118 (-0.23796-0.264276)

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 2 時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (touhoku002-00.dns 2015-03-14)

項目 1: 【3】 (5) 焼酎 一回目留置  
 項目 2: 【3】 (5) 焼酎 二回目留置  
 項目 3: 【3】 (5) 焼酎 三回目留置

○全データの基礎統計量

項目 1: 例数=150	平均値=1.16533	標準偏差=0.678924	標準誤差=0.0554339
項目 2: 例数=125	平均値=1.5032	標準偏差=1.10109	標準誤差=0.0984849
項目 3: 例数=93	平均値=1.36129	標準偏差=0.923607	標準誤差=0.0957736

○対応のあるデータと対応のある t 検定 (1 標本 t 検定、one sample t-test)

・項目 2: 【3】 (5) 焼酎 二回目留置

項目 2: 例数=97	平均値=1.55567	標準偏差=1.15316	標準誤差=0.117086
項目 1: 例数=97	平均値=1.1701	標準偏差=0.715187	標準誤差=0.0726163

変化量: 例数=97 平均値=0.385567 標準偏差=1.16815 標準誤差=0.118608  
 t=3.25077 自由度=96 有意確率 p=0.00158793\*\*  
 変化量平均値の 95%信頼区間=0.385567±0.235435 (0.150132-0.621002)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=0.00317586\*\*  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=0.385567±0.270082 (0.115485-0.655649)

・項目 3: 【3】 (5) 焼酎 三回目留置

項目 3: 例数=72	平均値=1.41389	標準偏差=0.904185	標準誤差=0.106559
項目 1: 例数=72	平均値=1.15833	標準偏差=0.703662	標準誤差=0.0829274

変化量: 例数=72 平均値=0.255556 標準偏差=0.843181 標準誤差=0.0993699  
 t=2.57176 自由度=71 有意確率 p=0.0122126\*  
 変化量平均値の 95%信頼区間=0.255556±0.198138 (0.0574177-0.453693)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=0.0244252\*  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=0.255556±0.22755 (0.0280054-0.483106)

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 2 時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (touhoku002-00.dns 2015-03-14)

項目 1: 【3】 (5) ビール 一回目留置  
 項目 2: 【3】 (5) ビール 二回目留置  
 項目 3: 【3】 (5) ビール 三回目留置

○全データの基礎統計量

項目 1: 例数=118	平均値=379.305	標準偏差=158.273	標準誤差=14.5702
項目 2: 例数=101	平均値=372.505	標準偏差=369.493	標準誤差=36.766
項目 3: 例数=86	平均値=451.221	標準偏差=301.605	標準誤差=32.523

○対応のあるデータと対応のある t 検定 (1 標本 t 検定、one sample t-test)

・項目 2: 【3】 (5) ビール 二回目留置

項目 2: 例数=63	平均値=369.73	標準偏差=181.149	標準誤差=22.8226
項目 1: 例数=63	平均値=390.397	標準偏差=150.602	標準誤差=18.974

変化量: 例数=63 平均値=-20.6667 標準偏差=136.554 標準誤差=17.2042  
 t=-1.20125 自由度=62 有意確率 p=0.234222  
 変化量平均値の 95%信頼区間=-20.6667±34.3908 (-55.0575-13.7241)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=0.468443  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=-20.6667±39.5206 (-60.1873-18.8539)

・項目 3: 【3】 (5) ビール 三回目留置

項目 3: 例数=58	平均値=483.534	標準偏差=345.177	標準誤差=45.324
項目 1: 例数=58	平均値=361.5	標準偏差=137.876	標準誤差=18.104

変化量: 例数=58 平均値=122.034 標準偏差=333.131 標準誤差=43.7422  
 t=2.78986 自由度=57 有意確率 p=0.00715848\*\*  
 変化量平均値の 95%信頼区間=122.034±87.5923 (34.4422-209.627)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=0.014317\*  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=122.034±100.701 (21.333-222.736)

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 2 時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壮治先生 (tohoku002-00.dns 2015-03-14)

項目 1: 【3】 (5) ウィスキー・ブランデー 一回目留置  
 項目 2: 【3】 (5) ウィスキー・ブランデー 二回目留置  
 項目 3: 【3】 (5) ウィスキー・ブランデー 三回目留置

○全データの基礎統計量

項目 1: 例数=25	平均値=2.048	標準偏差=1.35681	標準誤差=0.271362
項目 2: 例数=18	平均値=2.33333	標準偏差=1.18818	標準誤差=0.280056
項目 3: 例数=13	平均値=2.15385	標準偏差=0.800641	標準誤差=0.222058

○対応のあるデータと対応のある t 検定 (1 標本 t 検定、one sample t-test)

・項目 2: 【3】 (5) ウィスキー・ブランデー 二回目留置

項目 2: 例数=17	平均値=2.29412	標準偏差=1.21268	標準誤差=0.294118
項目 1: 例数=17	平均値=2.41176	標準偏差=1.41681	標準誤差=0.343627

変化量: 例数=17 平均値=-0.117647 標準偏差=1.11144 標準誤差=0.269563  
 t=-0.436436 自由度=16 有意確率 p=0.668353  
 変化量平均値の 95%信頼区間=-0.117647±0.571449 (-0.689096-0.453802)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=1  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=-0.117647±0.666597 (-0.784244-0.54895)

・項目 3: 【3】 (5) ウィスキー・ブランデー 三回目留置

項目 3: 例数=10	平均値=2.3	標準偏差=0.823273	標準誤差=0.260342
項目 1: 例数=10	平均値=2.22	標準偏差=1.28045	標準誤差=0.404914

変化量: 例数=10 平均値=0.08 標準偏差=0.97616 標準誤差=0.308689  
 t=0.259161 自由度=9 有意確率 p=0.801342  
 変化量平均値の 95%信頼区間=0.08±0.698303 (-0.618303-0.778303)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=1  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=0.08±0.828833 (-0.748833-0.908833)

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 2 時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (tohoku002-00.dns 2015-03-14)

項目 1: 【3】 (5) ワイン 一回目留置  
 項目 2: 【3】 (5) ワイン 二回目留置  
 項目 3: 【3】 (5) ワイン 三回目留置

○全データの基礎統計量

項目 1: 例数=5	平均値=1	標準偏差=0	標準誤差=0
項目 2: 例数=9	平均値=1.11111	標準偏差=0.333333	標準誤差=0.111111
項目 3: 例数=9	平均値=1	標準偏差=0.433013	標準誤差=0.144338

○対応のあるデータと対応のある t 検定 (1 標本 t 検定、one sample t-test)

・項目 2: 【3】 (5) ワイン 二回目留置

項目 2: 例数=3	平均値=1	標準偏差=0	標準誤差=0
項目 1: 例数=3	平均値=1	標準偏差=0	標準誤差=0

変化量: 例数=3 平均値=0 標準偏差=0 標準誤差=0  
 t=0 自由度=2 有意確率 p=1  
 変化量平均値の 95%信頼区間=0±0 (0-0)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=1  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=0±0 (0-0)

・項目 3: 【3】 (5) ワイン 三回目留置

項目 3: 例数=2	平均値=0.75	標準偏差=0.353553	標準誤差=0.25
項目 1: 例数=2	平均値=1	標準偏差=0	標準誤差=0

変化量: 例数=2 平均値=-0.25 標準偏差=0.353553 標準誤差=0.25  
 t=-1 自由度=1 有意確率 p=0.5  
 変化量平均値の 95%信頼区間=-0.25±3.17655 (-3.42655-2.92655)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=1  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=-0.25±6.36292 (-6.61292-6.11292)



東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 2 時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壮治先生 (tohoku002-00.dns 2015-03-14)

項目 1: 【5】 (4) NUM 一回目留置  
 項目 2: 【5】 (4) NUM 二回目留置  
 項目 3: 【5】 (4) NUM 三回目留置

○全データの基礎統計量

項目 1: 例数=769	平均値=48.5735	標準偏差=37.3269	標準誤差=1.34604
項目 2: 例数=624	平均値=48.2869	標準偏差=41.4981	標準誤差=1.66125
項目 3: 例数=556	平均値=45.1475	標準偏差=32.9348	標準誤差=1.39675

○対応のあるデータと対応のある t 検定 (1 標本 t 検定、one sample t-test)

・項目 2: 【5】 (4) NUM 二回目留置

項目 2: 例数=470	平均値=51.6936	標準偏差=41.7471	標準誤差=1.92565
項目 1: 例数=470	平均値=50.7681	標準偏差=36.9344	標準誤差=1.70366

変化量: 例数=470 平均値=0.925532 標準偏差=33.2158 標準誤差=1.53213  
 t=0.604082 自由度=469 有意確率 p=0.546081  
 変化量平均値の 95%信頼区間=0.925532±3.01069 (-2.08516-3.93622)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=1  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=0.925532±3.44518 (-2.51965-4.37071)

・項目 3: 【5】 (4) NUM 三回目留置

項目 3: 例数=399	平均値=48.7268	標準偏差=35.1256	標準誤差=1.75848
項目 1: 例数=399	平均値=49.2932	標準偏差=33.2776	標準誤差=1.66596

変化量: 例数=399 平均値=-0.566416 標準偏差=34.3276 標準誤差=1.71853  
 t=-0.329593 自由度=398 有意確率 p=0.741881  
 変化量平均値の 95%信頼区間=-0.566416±3.37853 (-3.94495-2.81212)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=1  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=-0.566416±3.86655 (-4.43297-3.30013)

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 2 時期の平均値の比較 ===

[DANS V7. 1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (tohoku002-00.dns 2015-03-14)

項目 1: 【14】 -11BMI 一回目留置  
 項目 2: 【14】 -11BMI 二回目留置  
 項目 3: 【14】 -11BMI 三回目留置

○全データの基礎統計量

項目 1: 例数=1353	平均値=23.5457	標準偏差=3.4319	標準誤差=0.093301
項目 2: 例数=1036	平均値=23.4422	標準偏差=3.48051	標準誤差=0.108134
項目 3: 例数=917	平均値=23.5766	標準偏差=3.53914	標準誤差=0.116873

○対応のあるデータと対応のある t 検定 (1 標本 t 検定、one sample t-test)

・項目 2: 【14】 -11BMI 二回目留置

項目 2: 例数=943	平均値=23.453	標準偏差=3.47581	標準誤差=0.113188
項目 1: 例数=943	平均値=23.4684	標準偏差=3.38442	標準誤差=0.110212

変化量: 例数=943 平均値=-0.0153765 標準偏差=1.53763 標準誤差=0.050072  
 t=-0.307087 自由度=942 有意確率 p=0.758845  
 変化量平均値の 95%信頼区間=-0.0153765±0.0982656 (-0.113642-0.0828892)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=1  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=-0.0153765±0.112411 (-0.127788-0.0970348)

・項目 3: 【14】 -11BMI 三回目留置

項目 3: 例数=815	平均値=23.5634	標準偏差=3.48885	標準誤差=0.122209
項目 1: 例数=815	平均値=23.7175	標準偏差=3.48232	標準誤差=0.12198

変化量: 例数=815 平均値=-0.15411 標準偏差=1.97017 標準誤差=0.0690121  
 t=-2.23309 自由度=814 有意確率 p=0.0258139\*  
 変化量平均値の 95%信頼区間=-0.15411±0.135463 (-0.289573-0.0186478)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=0.0516279+  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=-0.15411±0.154971 (-0.309081-0.000860189)

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ3回分の解析結果

=== 2時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (tohoku002-00.dns 2015-03-14)

項目 1: 【18】 右一回目 一回目留置  
 項目 2: 【18】 右一回目 二回目留置  
 項目 3: 【18】 右一回目 三回目留置

○全データの基礎統計量

項目 1: 例数=1295	平均値=22.9974	標準偏差=8.45356	標準誤差=0.234912
項目 2: 例数=935	平均値=22.6861	標準偏差=8.3548	標準誤差=0.273231
項目 3: 例数=904	平均値=22.7737	標準偏差=8.49925	標準誤差=0.282681

○対応のあるデータと対応のあるt検定(1標本t検定、one sample t-test)

・項目 2: 【18】 右一回目 二回目留置

項目 2: 例数=837	平均値=22.8293	標準偏差=8.39659	標準誤差=0.290229
項目 1: 例数=837	平均値=23.1183	標準偏差=8.3037	標準誤差=0.287018

変化量: 例数=837 平均値=-0.289008 標準偏差=4.11392 標準誤差=0.142198  
 t=-2.03244 自由度=836 有意確率 p=0.0424252\*  
 変化量平均値の95%信頼区間=-0.289008±0.279107 (-0.568115--0.00990124)  
 Bonferroni型多重検定: 有意確率 p=0.0848504+  
 変化量平均値の95%同時信頼区間=-0.289008±0.319298 (-0.608307-0.0302899)

・項目 3: 【18】 右一回目 三回目留置

項目 3: 例数=784	平均値=22.6054	標準偏差=8.38275	標準誤差=0.299384
項目 1: 例数=784	平均値=23.0122	標準偏差=8.23484	標準誤差=0.294101

変化量: 例数=784 平均値=-0.406888 標準偏差=4.80509 標準誤差=0.17161  
 t=-2.371 自由度=783 有意確率 p=0.0179812\*  
 変化量平均値の95%信頼区間=-0.406888±0.336871 (-0.743758--0.0700171)  
 Bonferroni型多重検定: 有意確率 p=0.0359625\*  
 変化量平均値の95%同時信頼区間=-0.406888±0.385389 (-0.792277--0.0214988)

東日本大震災・高齢被災者健康調査データ 3 回分の解析結果

=== 2 時期の平均値の比較 ===

[DANS V7.1]

データ名: 東北大学病院 老年科 冲永壯治先生 (touhoku002-00.dns 2015-03-14)

項目 1: 【18】 右二回目 一回目留置  
 項目 2: 【18】 右二回目 二回目留置  
 項目 3: 【18】 右二回目 三回目留置

○全データの基礎統計量

項目 1: 例数=1275	平均値=23.4672	標準偏差=8.6073	標準誤差=0.241053
項目 2: 例数=905	平均値=22.9767	標準偏差=8.48286	標準誤差=0.28198
項目 3: 例数=884	平均値=23.0071	標準偏差=8.57526	標準誤差=0.288417

○対応のあるデータと対応のある t 検定 (1 標本 t 検定、one sample t-test)

・項目 2: 【18】 右二回目 二回目留置

項目 2: 例数=800	平均値=23.1356	標準偏差=8.55571	標準誤差=0.30249
項目 1: 例数=800	平均値=23.6593	標準偏差=8.44527	標準誤差=0.298586

変化量: 例数=800 平均値=-0.523625 標準偏差=4.05732 標準誤差=0.143448  
 t=-3.65028 自由度=799 有意確率 p=0.00027899\*\*\*  
 変化量平均値の 95%信頼区間=-0.523625±0.281579 (-0.805204--0.242046)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=0.00055798\*\*\*  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=-0.523625±0.322131 (-0.845756--0.201494)

・項目 3: 【18】 右二回目 三回目留置

項目 3: 例数=760	平均値=22.9171	標準偏差=8.47775	標準誤差=0.30752
項目 1: 例数=760	平均値=23.4693	標準偏差=8.41412	標準誤差=0.305212

変化量: 例数=760 平均値=-0.552237 標準偏差=4.7197 標準誤差=0.171202  
 t=-3.22565 自由度=759 有意確率 p=0.00131072\*\*  
 変化量平均値の 95%信頼区間=-0.552237±0.336085 (-0.888322--0.216152)  
 Bonferroni 型多重検定: 有意確率 p=0.00262143\*\*  
 変化量平均値の 95%同時信頼区間=-0.552237±0.384494 (-0.936731--0.167742)